

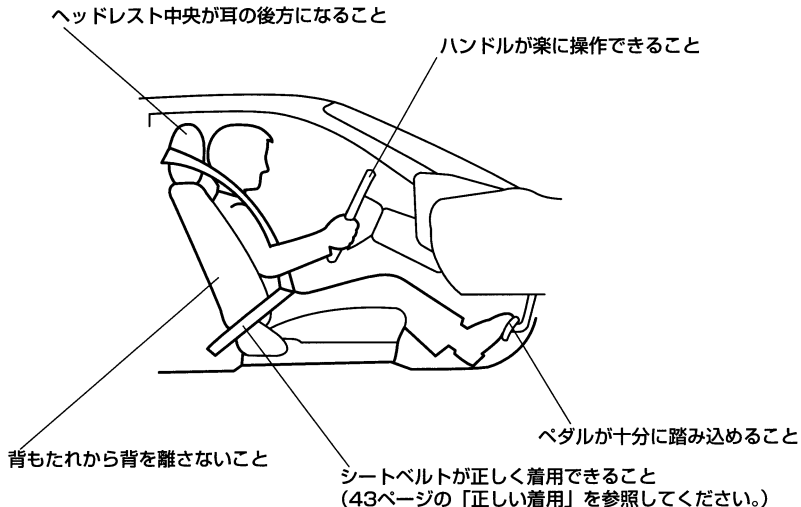
2 安全装備

●シート	34
●シートベルト	42
●SRSエアバッグ	52
●ABS&ブレーキアシスト	60
●トラクションコントロール (TRC)	64
●VSC	66

シート

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように次の事項に注意してシートを調整します。



⚠ 警告

- 走行中は運転席シートの調整をしないでください。シートが突然動き運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを調整した後は、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- フロントシートの下に物を置かないでください。物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因になります。
- 背もたれと背中との間にクッション（座布団）などをいれないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

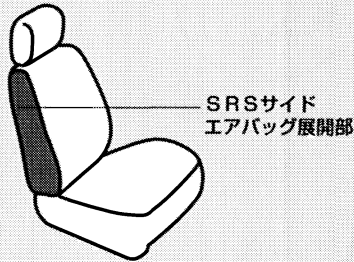
⚠ 注意

- シートを調整するときは同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手をはさみけがをするおそれがあります。

フロントシート

⚠ 警告

- フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外を取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外がSRSサイドエアバッグ展開部をおおうと、SRSサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなり、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。

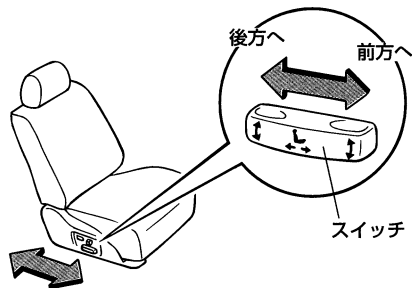


- フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取り付け、取りはずし、修理が必要なときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、シートの改造などはしないでください。フロントシートに内蔵されているSRSサイドエアバッグを不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- フロントシート側面などSRSエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

パワーシート（運転席）★

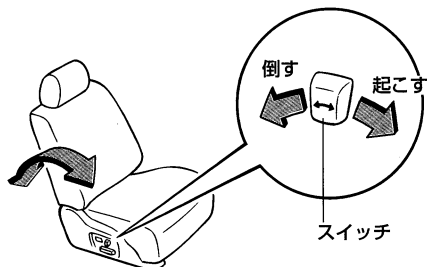
■前後位置調整

スイッチを前後に操作している間作動します。



■リクライニング調整

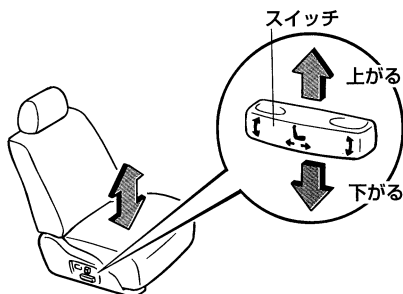
スイッチを前後に操作している間作動します。



■シートクッションの上下調整

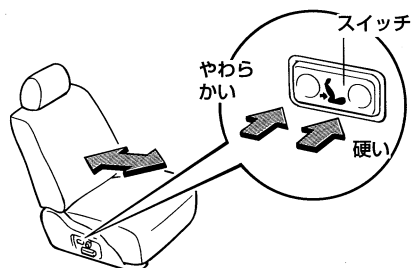
スイッチを上下に操作している間作動します。

- スイッチの前側を操作するとシートクッション前端が動きます。
- スイッチのうしろ側を操作するとシートクッション後端が動きます。
- スイッチの全体を操作するとシートクッション全体が動きます。



■腰部硬さ調整（ランバーサポート）

スイッチの前後を押している間作動します。



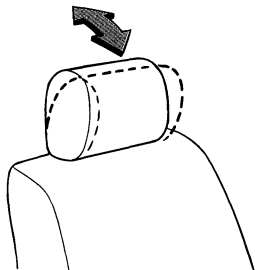
アドバイス

シートの前後位置、シートクッションの上下位置、背もたれの前後位置または、背もたれの腰部硬さ位置が終点まで移動したあとにスイッチを同一方向に押し続けしないでください。パワーシートの故障の原因になります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

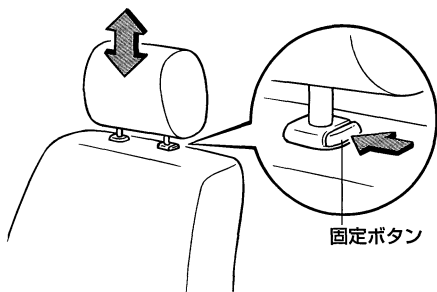
■ヘッドレスト前後位置調整

調整したい方向へ押し（または引き）ます。



■ヘッドレスト上下位置調整

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定ボタンを押したまま押し下げます。
- 取りはずすときは固定ボタンを押したまま引き抜きます。



⚠ 警告

ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

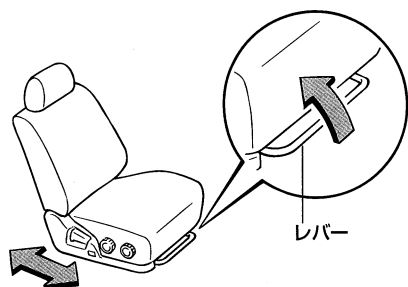
⚠ 注意

ヘッドレストはフロントシート専用です。取り付けるときは、「カチッ」と音がして固定されたことを確認してください。前後のヘッドレストを間違えて取り付けたら、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

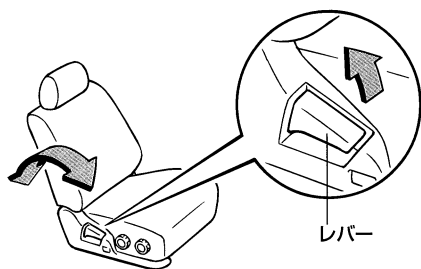
マニュアルシート★

■前後位置調整

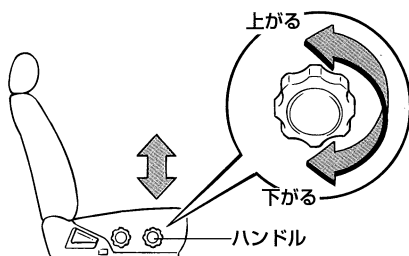
レバーを引いたままシートを前後に動かして調整します。調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。


■リクライニング調整

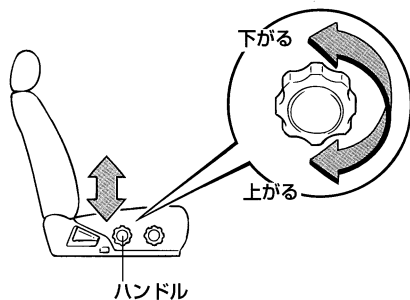
レバーを引いたまま背もたれを前後に動かして調整します。調整後、背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。


■シートクッション前部の上下調整
運転席

ハンドルをまわしてシートクッションを上下に調整します。


■シートクッション後部の上下調整
運転席

ハンドルをまわしてシートクッションを上下に調整します。



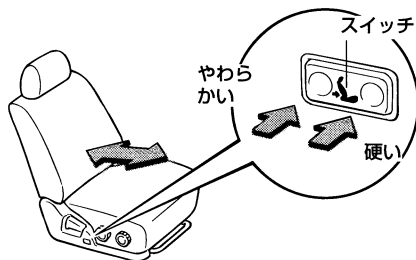
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

■腰部硬さ調整

(ランバーサポート) ★

運転席

スイッチの前後を押している間作動します。

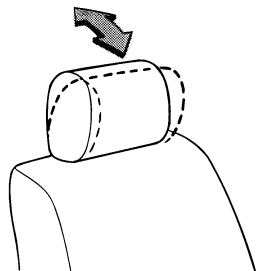


アドバイス

背もたれの腰部硬さ位置が終点まで移動したあとにスイッチを同一方向に押し続けしないでください。ランバーサポートの故障の原因になります。

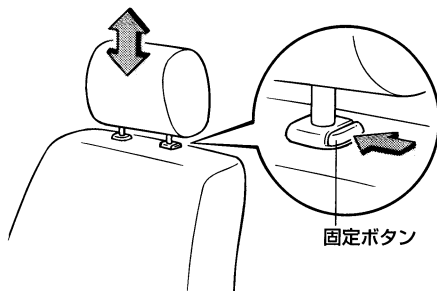
■ヘッドレスト前後位置調整

調整したい方向へ押し（または引き）ます。



■ヘッドレスト上下位置調整

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定ボタンを押したまま押し下げます。
- 取りはずすときは固定ボタンを押したまま引き抜きます。



警告

ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

注意

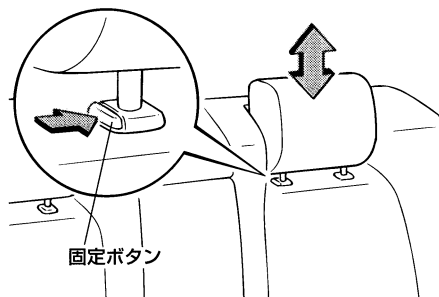
ヘッドレストはフロントシート専用です。取りつけるときは、「カチッ」と音がして固定されたことを確認してください。前後のヘッドレストを間違えて取りつくと、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

リヤシート

ヘッドレスト調整★

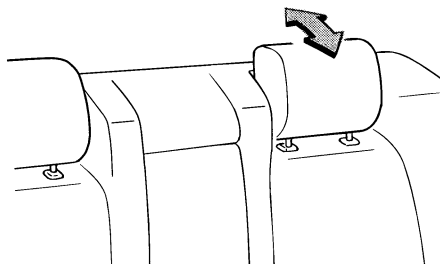
■上下位置

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定ボタンを押したまま押し下げます。
- 取りはずすときは固定ボタンを押したまま引き抜きます。



■前後位置

調整したい方向へ押し（または引き）ます。



⚠ 警告

ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

⚠ 注意

ヘッドレストはリヤシート専用です。取り付けるときは、「カチッ」と音がして固定されたことを確認してください。前後のヘッドレストを間違えて取りつけると、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

MEMO



シートベルト

シートベルトインデックス

次ページの「正しい着用」を必ずお読みください。

シートによって、使用するシートベルトが異なります。

以下の項目を参照して正しいシートベルトを使用してください。

シート		シートベルト	機能・機構	記載ページ
フロントシート		3点式	● E L R（緊急時固定）機構	45
			● テンションリデューサー（ベルト圧迫感減少装置）機構	45
			● プリテンショナー&フォースリミッター機構	46
			● アジャスタブルショルダーベルトアンカー	48
			● シートベルト非着用警告灯	49
リヤシート	左右席	3点式	● E L R（緊急時固定）機構 ● チャイルドシート固定機構	45 50
	中央席	3点式	● E L R（緊急時固定）機構	45

正しい着用

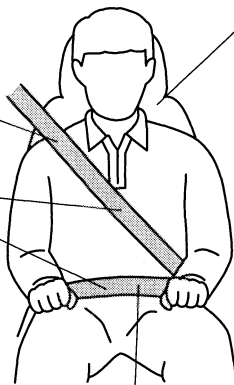
シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

肩に十分かけること

(首にかかったり
肩からはずれないこと)

背もたれを調整し、上体を起こし
深く腰かけてすわること

ねじれていないこと



必ず腰骨のできるだけ低い位置に
密着させること

⚠ 警告

- 車に乗る場合は、全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートベルトを着用するときは必ず次のことをお守りください。守らないとシートベルトにより重大な傷害を受けたり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。正しい姿勢については「正しい運転姿勢」(34ページ)を参照してください。
 - 肩ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。必ず肩に十分かかるように着用してください。
 - シートベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。シートベルトが腰骨からずれていると衝突したときなどに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
 - シートベルトはねじれないように着用してください。ねじれていると衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができません。
 - シートベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
 - シートベルトを着用する場合は洗たくばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。
 - シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けます。
 - ハンドルやインストルメントパネルに必要以上近づいて運転しないでください。

⚠ 警告

- シートベルトのバックルには異物はいらないようにしてください。異物がいるとプレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまでもシートベルトを必ず着用させてください。
ひざの上でお子さまを抱いても、急ブレーキや衝突したときなどに十分に支えることができません。お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートベルトが首やあごに当たる場合や腰骨にかからないような小さなお子さまはチャイルドシート・ジュニアシートを使用してください。使用しない場合、衝突したときなどに強い圧迫を受けシートベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、ひとりすわりのできない小さなお子さまはベビーシートを使用してください。
なお、ベビーシート・チャイルドシート・ジュニアシートについてはトヨタ販売店にご相談ください。

〈選択の目安（トヨタ純正品の場合）〉

	体重	身長	参考年令
ベビーシート	10kg 未満	75cm 以下	新生児 ～12カ月
チャイルドシート	9～ 18kg	75～ 105cm	9カ月 ～4才
ジュニアシート	15～ 32kg	100～ 135cm	4才～ 10才

- ほつれ、すりきれができた、正常に作動しなくなったシートベルトはすぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷のついたシートベルトは使用しないですぐに新品と交換してください。そのまま使用すると衝突したときなどに正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどをしないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
シートベルトの取り付け・取りはずし、交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

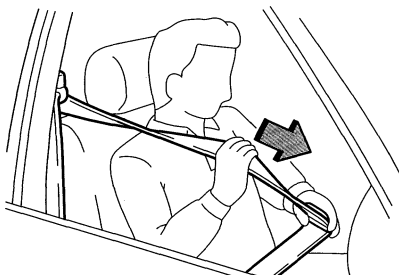
⚠ 注意

妊娠中の女性や疾患のあるかたがシートベルトを着用する場合は、衝突のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、医師にご相談のうえご使用ください。

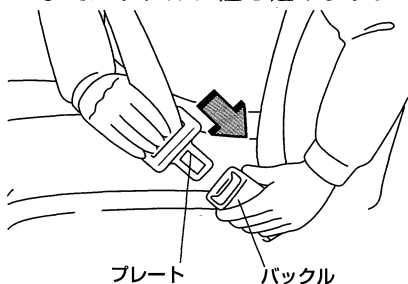
ELR（緊急時固定機構）付き3点式シートベルト

- 1 プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確かめます。

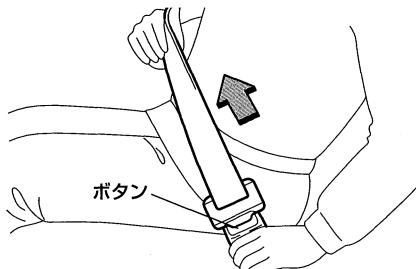
シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。



- 2 プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。



- 3 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるとし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。



- 4 肩ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。

このとき、フロントシートでベルトが首に当たったり、肩からはずれて腕にかかってしまうときは、アジャスタブルショルダーベルトアンカーでベルトの高さを調整します。
(48ページ参照)



- 5 はずすときはバックルのボタンを押します。

ELR機構

身体の動きにあわせて伸縮しますが、強い衝撃で体が前に倒れそうなどときには、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

テンションリデューサー (ベルト圧迫感減少装置) 機構

4WD車のSパッケージを除く

フロントシートベルトはシートベルト着用時に、ベルトによる肩への圧迫感が少なくなるベルト圧迫感減少装置がついています。

※装置の有無については、42ページの「シートベルトインデックス」をご覧ください。

プリテンショナー&フォースリミッター付シートベルト



アドバイス

プリテンショナー&フォースリミッター付シートベルトは一度作動すると再使用できません。作動すると、シートベルトを引き出すことも巻き取ることもできなくなりますので必ずトヨタ販売店で交換してください。

プリテンショナー機構

プリテンショナー機構は、前席の乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにベルトを引き込み、シートベルトの効果をより高める機構です。

シートベルトは正しく着用してください。(43ページ参照)

プリテンショナー機構は、運転席、助手席シートベルトに装着されており、シートベルトを着用していなくても作動します。

⚠ 警告

- プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。守らないとプリテンショナーが十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - シートベルトを正しく着用する。(43ページ)
 - シートを正しい運転姿勢のとれる位置に調整する。(34ページ)
- プリテンショナー付シートベルトの取りつけ・取りはずし、分解などをしてしないでください。また、プリテンショナー付シートベルトを修理するときは必ずトヨタ販売店で行ってください。プリテンショナー付シートベルトを不適切にあつかうと、正常に作動しなくなったり、誤って引き込み重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

※装置の有無については、42ページの「シートベルトインデックス」をご覧ください。

知識

- プリテンショナー付シートベルトは車両前方から強い衝撃を受けたときに作動します。次のような衝撃が弱いときには作動しない場合があります。
 - コンクリートの壁に約25km/h以下の速度で正面衝突したとき
 なお、次のような場合は作動する場合がありますが、本来の効果を発揮しません。
 - 側面や後方から衝撃を受けたとき
 - 車両が横転、転覆したとき
- プリテンショナー付シートベルトが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また人体への影響もありません。

SRSエアバッグ警告灯/ プリテンショナー警告灯



エンジンスイッチをONまたはACCの位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

その後、SRSエアバッグシステムまたはプリテンショナー付シートベルトに異常があると点灯・点滅します。

注意

警告灯が次のようになったときはシステムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。衝突したときなどにSRSエアバッグまたはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せずけがをするおそれがあります。

- エンジンスイッチをONまたはACCの位置にしても点灯しないとき、または点灯・点滅したままのとき
- 走行中に点灯・点滅したとき

フォースリミッター機構

前面衝突時、ベルトにある一定以上の荷重がかかったときに作動し、それ以上荷重がかからないようにする装置です。

SRSエアバッグの作動とあわせて乗員の胸に加わる力を減少させます。

アジャスタブルショルダーベルトアンカー

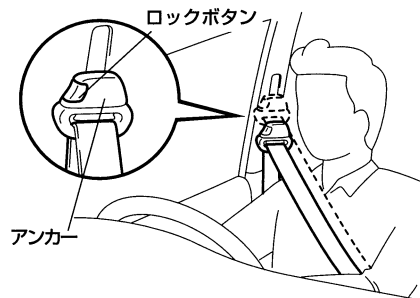
ベルトが肩に十分かかるようにベルトの高さを調整することができます。

ベルトが首に当たったり、肩からはずれて腕にかかってしまうときに使用しません。

調整するときは、ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにしてください。

- 高さを上げるときは、アンカー部を持ち、そのまま動かします。
- 高さを下げるときは、ロックボタンを押したままアンカー部を動かし、最適な位置で手を離します。

“カチッ”と音がし、確実に固定されていることを確認します。



⚠ 警告

ショルダーベルトアンカーを調整するときは次のことをお守りください。守らないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

※装置の有無については、42ページの「シートベルトインデックス」をご覧ください。

シートベルト非着用警告灯

運転席シートベルト 非着用警告灯

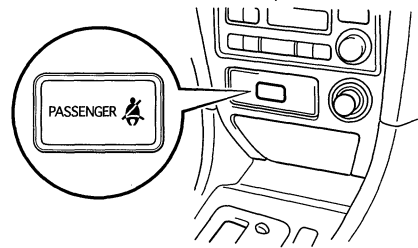


エンジンスイッチがONの位置のときに運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

助手席 シートベルト 非着用警告灯



エンジンスイッチがONの位置で、かつ助手席シート座面の乗員検知センサーが乗員を検知したときに、助手席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。



知識

- センサーは、助手席シート座面（うしろ半分）に、一定以上の重量がかかったとき検知します。したがって、荷物などを置いた場合にも検知し、警告灯が点滅することがあります。
- 助手席シート座面上に座布団などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

※装置の有無については、42ページの「シートベルトインデックス」をご覧ください。

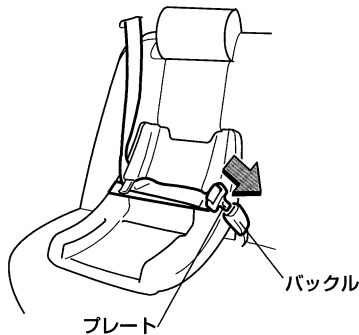
チャイルドシート固定機構付シートベルト

リヤシートの左右席シートベルトにチャイルドシート固定機構付シートベルトが組み込まれています。

チャイルドシート固定機構を作動させると引き出し方向にベルトが動かないようにできるためチャイルドシートなどの取り付けができます。

■チャイルドシートの取り付け

- 1 チャイルドシートなどを取りつけます。
 - 取り付け方は、それぞれの商品に付属の取扱書をご覧ください。
- 2 プレートバックルに“カチツ”と音がするまで差し込みます。



- 3 肩ベルトを止まるまでいっぱいにくっきり引き出します。
(チャイルドシート固定機構が作動します。)



- 4 チャイルドシートがしっかり固定できるように肩ベルトを巻き取らせませす。
- 5 ベルトが引き出し方向に動かないことを確認します。

■チャイルドシート固定機構の解除
バックルをはずしてベルトをいっぱいまで巻き取らせるとチャイルドシート固定機構は解除します。

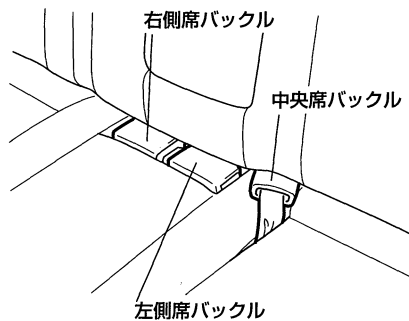
知識

シートベルトを着用した状態で上体の大きな動きをしたときにチャイルドシート固定機構に切り替わる場合があります。そのときは一度バックルをはずし、ベルトをいっぱいまで巻き取らせて、チャイルドシート固定機構を解除してから再度シートベルトを着用してください。

※装置の有無については、42ページの「シートベルトインデックス」をご覧ください。

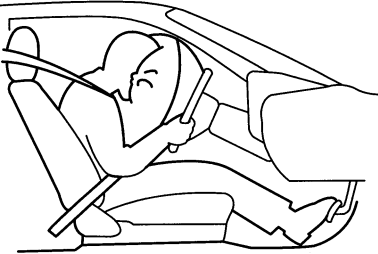
リヤシートベルトの格納

バックルを次のように格納することができます。

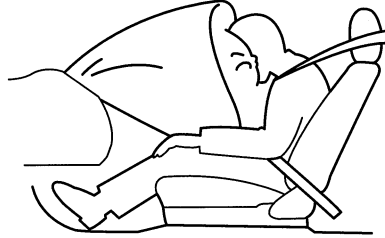


SRS*エアバッグ

運転席SRSエアバッグ



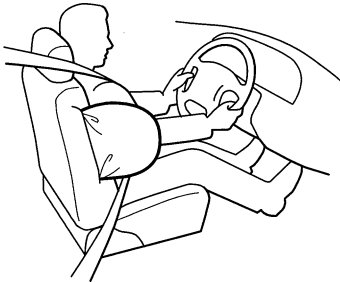
助手席SRSエアバッグ



運転席SRSエアバッグ・助手席SRSエアバッグは、運転者または乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員の頭や胸などの上体に作用する衝撃力を分散、緩和させる機能を持ちます。

シートベルトは必ず着用してください。(43ページ参照)

SRSサイドエアバッグ★



SRSサイドエアバッグは、前席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両客室部に側方から受けたときに、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグがふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて前席乗員の胸などの上体に作用する衝撃力を分散、緩和させる機能を持ちます。

SRSサイドエアバッグは、乗員がいなくてもふくらみます。

シートベルトは必ず着用してください。(43ページ参照)

SRSエアバッグ警告灯/
プリテンショナー警告灯



エンジンスイッチをONまたはACCの位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

その後、SRSエアバッグシステムまたはプリテンショナー付シートベルトに異常があると点灯・点滅します。

⚠ 注意

警告灯が次のようになったときはシステムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。衝突したときなどにSRSエアバッグまたはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せずけがをするおそれがあります。

- エンジンスイッチをONまたはACCの位置にしても点灯しないとき、または点灯・点滅したままのとき。
- 走行中に点灯・点滅したとき。

*SRSはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員保護補助装置の意味
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

⚠ 警告

- SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。乗車するときには必ず次のことをお守りください。守らないと衝突したときなどにSRSエアバッグの効果を十分に発揮させることができず、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを正しく着用していないと、急ブレーキなどで前方に放り出されたと同時にSRSエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。シートベルトの正しい着用については43ページをご覧ください。
- シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートにすわってください。SRSエアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車しているとSRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

《運転者のかたは》

運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないようにしてすわってください。

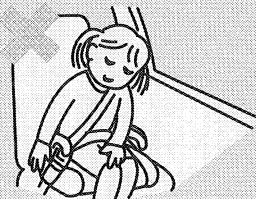
《助手席乗員のかたは》

助手席SRSエアバッグからできるだけ離れて後方にすわってください。シート前端にすわったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。



シートの調整、正しい姿勢については34ページをご覧ください。

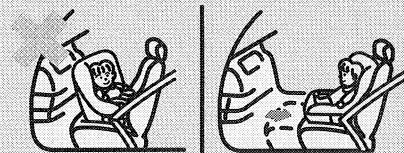
- SRSサイドエアバッグ装着車では、フロントドアにもたれかからないようにしてください。SRSサイドエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け危険です。とくにお子さまを乗せるときにはご注意ください。



- ひざの上に物をかかえるなど乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグがふくらんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動をさまたげたりして危険です。
- お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃でお子さまの生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。
- お子さまはリヤシートにすわらせて必ずシートベルトを着用させてください。リヤシートがお子さまにとって最も安全な乗車位置とされています。

⚠ 警告

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、ベビーシート・チャイルドシート・ジュニアシートなどの子供専用シートをリヤシートに装着してご使用ください。
- 助手席にはベビーシートなど後ろ向き装着の子供専用シートは絶対に取りつけないでください。また、チャイルドシートなど前後向きとも装着可能な子供専用シートでも後ろ向きには絶対に取りつけないでください。助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。

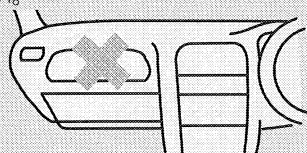


なお、やむを得ず助手席に前向き装着の子供専用シートを取りつける場合には、シートの前後位置調整を一番後ろにして取りつけてください。

- お子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上にだいたりした状態では走行しないでください。



- 車両の整備作業の場合には、必ず次のことを守ってください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。これらの作業が必要なときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- SRSエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取り付け・分解・修理などをしないでください。

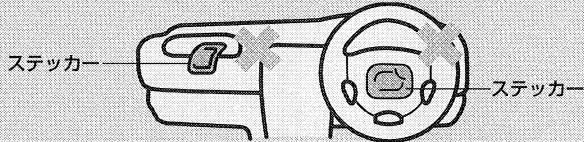


- SRSサイドエアバッグ装着車では、フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取り付け・分解・修理などをしないでください。また、フロントシートの改造はしないでください。
- サスペンションを改造をしないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながります。
- 車両前部または車両客室部の修理をしないでください。不適切な修理を行うとSRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグが正常に作動しなくなります。

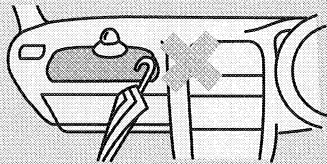
⚠ 警告

●カー用品などを装着するときは、必ず次のことをご守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。

- SRSエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどでおおわないでください。



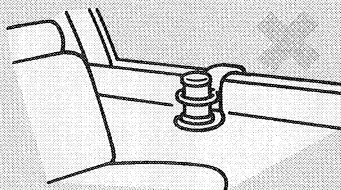
- インストルメントパネル上部に芳香剤など物を置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席SRSエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。



- SRSサイドエアバッグ装着車では、フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外を取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外がSRSサイドエアバッグ展開部をおおるとSRSサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。



- SRSサイドエアバッグ装着車では、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取りつけないでください。SRSサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

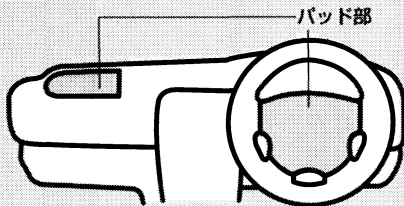


⚠ 警告

- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着する場合はトヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をするとSRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグの誤作動につながります。
- ステアリングパッド・インストルメントパネル上部・フロントシート側面などSRSエアバッグ展開部は、強くたたきなど過度の力を加えないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRSエアバッグがふくらんだ直後はSRSエアバッグ構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。



アドバイス

SRSエアバッグは一度ふくらむと再使用できません。必ずトヨタ販売店で交換してください。

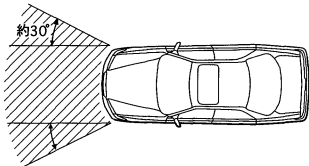


知識

- 衝突により車両が大きく変形しても、衝撃吸収ボディ構造*により乗員への衝撃は大きくならない場合がありますので、車両の変形、損傷とSRSエアバッグの作動とは必ずしも一致しません。
- *衝撃吸収ボディ構造は、衝突時の衝撃をボディを変形させることにより吸収します。
- 運転席・助手席SRSエアバッグは強い前面衝突時において、SRSサイドエアバッグは強い側面衝突時において、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員の頭や胸などの上部が受ける重大な傷害を軽減する装置です。したがってシートベルトを正しく着用している乗員が重大な傷害を受けるおそれのない衝突では、SRSエアバッグは作動しにくくなっています。

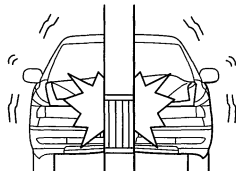
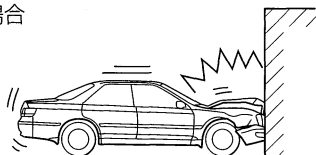
知識

- 運転席・助手席 SRSエアバッグは、車両前方左右約30° 以内の方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。



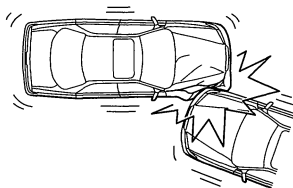
例えば、次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、運転席・助手席 SRSエアバッグは作動しない場合があります。

- 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても衝突速度が約25km/h以下の場合
- 衝突時に変形、移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても衝突速度が約30km/h以下の場合



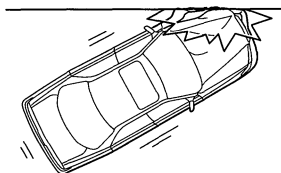
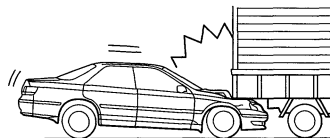
- 衝突したものが変形したり、移動した場合は、衝突による衝撃が緩められるため、運転席・助手席 SRSエアバッグの作動する車速は高くなります。

- 例えば、停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、約50km/h程度の速度であっても運転席・助手席 SRSエアバッグは作動しないことがあります。
- 衝突の方向（角度）や片側衝突など（オフセット衝突）によっては、さらに高い速度であっても運転席・助手席 SRSエアバッグは作動しないことがあります。



- 次のような場合も衝突による衝撃が緩められるため、運転席・助手席 SRSエアバッグが作動しないことがあります。

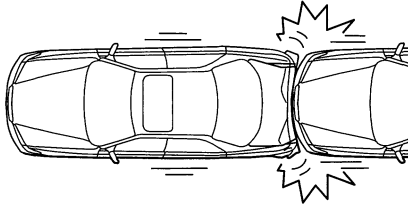
- トラックの荷台下などへもぐりこみ衝突したとき
- 前方の斜めの方向から衝撃を受けたとき



知識

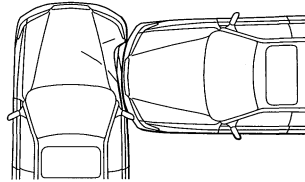
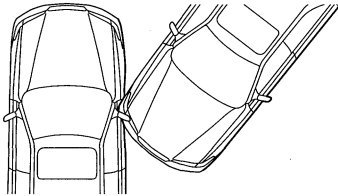
- 次のような場合は、運転席・助手席SRSエアバッグが作動する場合がありますが、本来の効果を発揮しません。

- 側面や後方から衝撃を受けたとき



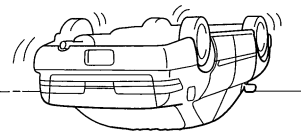
- SRSサイドエアバッグ装着車は衝突により客室部ボディが車両側方から強い衝撃を受けたときに作動します。例えば次のような客室部ボディが受ける衝撃が弱い場合にはSRSサイドエアバッグは作動しないことがあります。

- 側面に斜めの方向から衝撃を受けたとき
- 客室部以外の側面に衝撃を受けたとき



- 次のような場合はSRSエアバッグが作動する場合がありますが、本来の効果を発揮しません。

- 車両が横転、転覆したとき

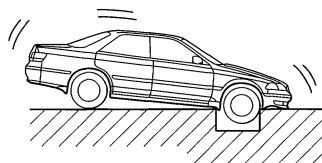
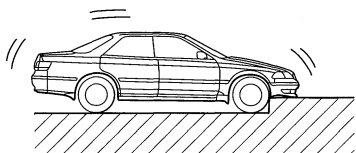


 知識

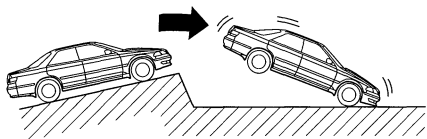
● 次のような、車両下部に強い衝撃を受けた場合には、SRSエアバッグが作動することがあります。

● 縁石などにぶつかったとき

● 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき



● ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



● SRSエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、SRSエアバッグとの接触により打撲やすり傷などが発生することもあります。

● SRSエアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また人体への影響もありません。

ただし、SRSエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚など身体に付着したときには、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱いかなどですと、まれに皮膚を刺激する場合があります。

● 一度作動したSRSエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。

● 衝突時などに助手席SRSエアバッグがふくらむことによって、車両のフロントガラスが破損することがあります。

ABS* & ブレーキアシスト★

⚠ 注意

- ABS&ブレーキアシストを過信しないでください。

ABSやブレーキアシストが作動した状態でも車両の安定性やハンドルの効き方には限界があります。

ABS&ブレーキアシストを過信せず速度をおさえ、車間距離を十分にとって安全運転に心がけてください。

- ABSはタイヤのグリップ限界を超えたり、ハイドロプレーニング現象*が起きた場合は効果を発揮できません。

※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象

- ABSは制動距離を短くするための装置ではありません。

次の場合などは、ABSのついていない車両に比べて制動距離が長くなる場合があります。速度をひかえめにして車間距離を十分にとってください。

- 砂利道、新雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
- 凹凸道や石だたみなどの悪路を走行しているとき

ABS

急ブレーキをかけたときや、すべりやすい路面でブレーキをかけたときに起こるタイヤのロック（回転が止まること）を防ぐことにより車両の安定性とハンドルの効きを確保しようとする装置です。

■運転について

- 急ブレーキ時は、ABSが効果を発揮するようにブレーキペダルをできるだけ強く踏み続けることが必要です。

- 急ブレーキ時にポンピングブレーキ*をしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。

※ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方

■作動について

ABSが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- ABSの作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やステアリングに振動を感じたり、車両停止後もモーター音が聞こえることがあります。

- ABSの作動が終了すると、ブレーキペダルが少し奥にはいたりすることがあります。

*ABSは Antilock Brake System(アンチロック・ブレーキ・システム) の略

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

 知識

- ABSは、車速が約10km/hを超えると作動できるようになります。また、車速が約5km/hまで下がると作動をやめます。
- 雨の日に、マンホールのふた、橋の継ぎ目、工事中的鉄板などの上でブレーキを踏むとすべりやすいため、ABSが作動しやすくなります。
- エンジン始動時や、始動後の発進直後にエンジンルームからモーター音や“カチッ”という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。

ブレーキアシスト

ブレーキペダルが急速度で踏み込まれた場合に、緊急制動と判断し、より大きな制動力を発生させることにより、ブレーキを強く踏めないドライバーの操作を補助する装置です。

■作動について

ブレーキアシストが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くなるようになり、作動音とともにペダルが小刻みに動くことがあります。

VSC付き車を除く

- ブレーキアシストの作動が終了すると、ブレーキペダルが作動音とともに動くことがあります。

 知識

ブレーキアシストは、車速が約10km/hを超えると作動できるようになります。また、車速が約5km/hまで下がると作動をやめます。

ABS & ブレーキアシスト警告灯*



- エンジンスイッチをONの位置にする
と点灯し、数秒後に消灯します。
その後、ABS & ブレーキアシストシ
ステムに異常があると点灯します。
- 警告灯が点灯しているときは、ABS &
ブレーキアシストは作動しませんが、通
常のブレーキとしての性能は確保され
ています。
- 警告灯が点灯しているときは、ABS
が作動しないため急ブレーキ時やすべ
りやすい路面でのブレーキ時には、タ
イヤがロックすることがあります。



アドバイス

警告灯が次のようになったときは、システ
ムの異常が考えられますので、トヨタ販売
店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONの位置にしても
点灯しないとき
- エンジンスイッチをONの位置で点灯し
たまま消灯しないとき、または走行中点
灯したままのとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯し、
再度点灯しなければ正常です。

VSC警告灯

VSC

VSC付き車

- エンジンスイッチをONの位置にする
と点灯し、数秒後に消灯します。
その後、VSCシステムまたはブレー
キアシストシステムに異常があると点
灯します。
- 警告灯が点灯しているときは、VSC
およびブレーキアシストは作動しませ
んが、通常の走行には支障ありません。



アドバイス

警告灯が次のようになったときは、システ
ムの異常が考えられますので、トヨタ販売
店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONの位置にしても
点灯しないとき
- エンジンスイッチをONの位置で点灯し
たまま消灯しないとき、または走行中点
灯したままのとき

* ブレーキアシスト付き車

MEMO



トラクションコントロール (TRC) ★ (注)

トラクションコントロールは、すべりやすい路面での発進や加速時に生じる後輪の空転を抑制し、車両の安定性と後輪の駆動力を確保しようとする装置です。

⚠ 注意

トラクションコントロールを過信しないでください。

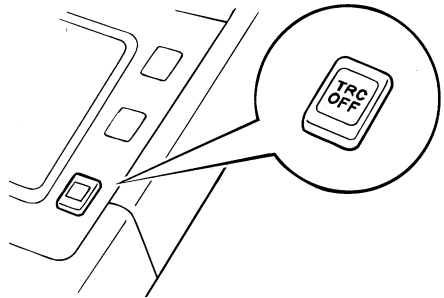
トラクションコントロールが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転に心がけスリップ表示灯が点滅したときはとくに慎重に運転してください。

🎓 知識

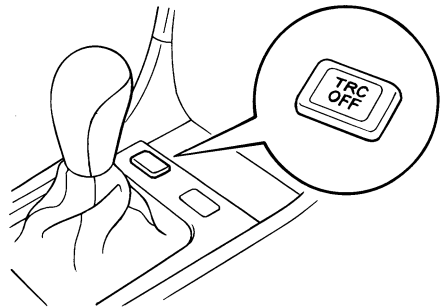
- トラクションコントロールは、エンジンスイッチをONの位置にすると作動できるようになります。
- ABS & ブレーキアシスト警告灯が点灯しているときは、トラクションコントロールは作動しません。
- エンジン始動時や、始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

TRC OFFスイッチ

オートマチック車



マニュアル車



(注) 2.5Lターボ車にお乗りの方は137ページの「ETCS」の項目をご覧ください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

■通常走行モード

システム作動可能状態です。通常走行では、このモードで使用してください。

- TRC OFF表示灯は点灯しません。
- エンジン始動時にはこのモードになっています。
- トラクションコントロールが作動すると、
 - スリップ表示灯が点滅し、後輪の空転を制御します。
 - 車両の振動を感じる場合がありますが、これはブレーキ制御によるもので異常ではありません。

■OFFモード

システム作動停止状態です。ぬかるみ、新雪などから脱出するときに、トラクションコントロールの作動により、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出困難なときに使用してください。

- 通常走行モードのときTRC OFFスイッチを押すと、TRC OFFモードになり、TRC OFF表示灯が点灯します。
- 通常走行モードにもどすときは、TRC OFFスイッチをもう一度押します。(TRC OFF表示灯が消灯します。)

TRC OFF表示灯



エンジンスイッチをONの位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。また、TRC OFFスイッチ（前ページ参照）を押してトラクションコントロールを作動停止状態にすると点灯します。



アドバイス

表示灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONの位置にしても点灯しないとき
- 点滅したままのとき
- エンジンスイッチをONの位置にして、トラクションコントロールが通常走行モード（作動可能状態）で、点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

スリップ表示灯



エンジンスイッチをONの位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。その後、トラクションコントロールシステムが作動したときに点滅します。また、VSC装着車は、車両が横すべりしそうになったときにも点滅します。



アドバイス

表示灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONの位置にしても点灯しないとき

VSC*★

VSCは、ABS&ブレーキアシスト・トラクションコントロール・EFIなどを総合的に制御し、急激なハンドル操作やすべりやすい路面での旋回時の横滑りなどを抑制するため、自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して車両の安定性を確保しようとするシステムです。

⚠ 注意

VSCを過信しないでください。

VSCが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転に心がけ、VSC作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯が点滅したときはとくに慎重に運転してください。

🎓 知識

- VSCは車速が約15km/hを超えると作動できるようになります。
- ABS&ブレーキアシスト警告灯が点灯しているときは、VSCは作動しません。
- エンジン始動時や、始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

TRC OFF表示灯

TRC
OFF

エンジンスイッチをONの位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

その後、VSCシステムに異常があると点灯します。

また、TRC OFFスイッチ（64ページ参照）を押してトラクションコントロールを作動停止状態にすると点灯します。

👉 アドバイス

表示灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONの位置にしても点灯しないとき。
- 点滅したままのとき
- エンジンスイッチをONの位置にして、トラクションコントロールが通常走行モード（作動可能状態）で、点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

*VSCは Vehicle Stability Control(ビークル・スタビリティ・コントロール) の略

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

スリップ表示灯



エンジンスイッチをONの位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。その後、トラクションコントロールシステムが作動したときに点滅します。また、車両が横すべりしそうになったときにも点滅します。



アドバイス

表示灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONの位置にしても点灯しないとき

■VSC作動警告ブザー

車両が横すべりしそうになったときに断続音が鳴ります。



知識

運転状況によっては、VSC作動警告ブザー（断続音）のみで警告する場合やスリップ表示灯の点滅のみで警告する場合があります。

VSC警告灯

VSC

- エンジンスイッチをONの位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。その後、VSCシステムまたはブレーキアシストシステムに異常があると点灯します。
- 警告灯が点灯しているときは、VSCおよびブレーキアシストは作動しませんが、通常の走行には支障ありません。



アドバイス

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONの位置にしても点灯しないとき
- エンジンスイッチをONの位置で点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

MEMO

